

監獄長(檢印) 已決囚名籍 主檢 何等書記氏名印	用紙美濃紙	事變 明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監 明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行 又ハ他監押送	終結	當該官ノ氏名 判士長及審事ノ氏名
某管下國郡區(町村)番地住族又ハ某子弟 何國郡區(町村)産 隊號職名 官氏名 某年月日生 當何年何月何年何月	職業及親屬 職業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	刑名及ヒ宣告ノ月日 刑名及ヒ宣告ノ月日	年氏族産本兵隊 齡名籍地管種號	入監ノ年月日 明治何年月日午(前後)第何時入監

入監ノ年月日	犯由ノ大畧及ヒ犯數	身材	容貌	音聲	教育及ヒ宗門	入監中ノ賞罰	書信贈答ノ年月日	假出獄	事變	終結
明治何年月日午(前後)第何時入監	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス若シ再犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某軍法會議於テ何刑ニ處セラレ	長何尺何寸何分肥瘠強弱	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘰癧、癩癧、天皰、創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス何宗或ハ宗門不詳	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	明治何年月日何國郡(町村)任親屬若クハ朋友ニ書信(發來)	明治何年月日何月何日假出獄	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脫監或ハ何ノ罪ヲ犯シ復々未決監ニ入ル	明治何年月日滿期放免又ハ特赦	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

第六編〇治罪〇第四類〇陸海軍監獄則〇陸軍監獄署官員服務概則 五百八十一

月名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
起 床	午前七時〇二分	六時三十分	六時〇六分	五時三十分	五時〇一分	四時四十分	四時五十分	五時十六分
就 役	午前八時〇二分	七時三十分	七時〇六分	六時三十分	六時〇一分	五時四十分	五時五十分	六時十六分
小 憩	午前第十時十分	第十時五分	同 上	第九時四十分	第九時三十分	同 上	同 上	同 上
午 飯	正午十二時十分	十二時	同 上	同 上	十二時三十分	十二時	同 上	同 上
罷 役	午後三時三十分	三時五十分	四 時	四時三十分	五 時	五時二十分	五時十分	四時五十分
晚 飯	一時二十分	一時三十分	一時五十分	一時五十分	一時五十分	一時五十分	一時五十分	一時五十分
還 房	午後四時五十八分	五時二十分	五時五十分	六時二十分	六時五十分	七時十四分	七時〇九分	六時四十分
服 役 時 間 合 計	六時二十分	六時五十分	七時三十分	八時三十分	八時五十分	九時〇五分	八時四十分	八時〇四分

囚徒服役時限表

某監獄署在監人書信紙明治年月日

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ
 一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアルトキハ其送致ヲ止メ
 仍ホ相當ノ罰ニ處スルヲアルヘシ

右相達ス

●第二章

○第一節 海軍監獄則

十七年五月海軍省丙第八十號達

海軍監獄則目錄

- 第一章 總則
- 第二章 獄署ノ規程
- 第三章 監獄ノ構造
- 第四章 役法及ヒ時限
- 第五章 工錢
- 第六章 給與
- 第七章 疾病及ヒ死亡
- 第八章 書信及ヒ接見
- 第九章 差入品
- 第十章 揭示
- 第十一章 賞譽
- 第十二章 懲罰

海軍監獄則

第一章 總則

第一條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種ト爲ス

- 一 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス又拘引セラレタル者ヲ一時留置スルコトヲ得
- 二 輕禁錮場 輕禁錮若クハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス又懲治人ヲ一時留置スルコトヲ得但他ノ拘禁者ト區別ス可シ
- 三 重禁錮場 重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

地方監獄ニ送致ス可キ已決囚ヲ一時拘禁スル時ハ其定役ノ有無ニ從ヒ重禁錮場若クハ輕禁錮場ニ拘禁ス可シ

第二條 在監人ト稱スルハ未決已決ヲ論セス監獄ニ拘禁若クハ留置セラレタル者ヲ謂フ

第三條 艦船内ニ於テ未決已決ノ者ヲ處置スルモ亦本則ニ從フ可シ但實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ艦船長適宜之ヲ處置スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程
第四條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ

處分スルノ外恣ニ責罰スルコトヲ得ス

第五條 新ニ入監スル者アル時ハ監獄署長先ツ送狀拘引狀収禁狀處刑宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ領収ノ証ヲ引致シ來リタル者ニ交付ス其文書ナキ者ハ之ヲ入監ス可カラズ

第六條 未決ノ共犯者ハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法廷ニ押送スル時亦同行セシム可カラズ但判士長判士若クハ審問委員別異ヲ要セストスル時ハ此限ニ在ラス

第七條 在監人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

- 一 准士官以上ノ軍人及ヒ同等ノ軍屬並生徒
- 二 下士及ヒ同等以下ノ判任軍屬
- 三 卒准卒及ヒ等外吏以下ノ軍屬
- 四 常人

陸軍々人軍屬ハ海軍々人軍屬ノ區別ニ從フ

第八條 入監ノ婦女ハ男子ト監房ヲ別異ス可シ若シ三歳未滿ノ乳兒ヲ携帶セント請フ者アル時ハ之ヲ許ス

第九條 新ニ入監スル者アル時ハ名籍ノ標本ニ照シ其要項ヲ録シ小房内ニ於テ全身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒ク可シ

第十條 入監人ノ携有スル財貨物品ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ監獄署長證印シテ之ヲ領置シ解放ノ時還付ス可シ但點檢ノ際隱匿セシ財物ハ之ヲ沒收ス
其領置ノ財物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フ時ハ之ヲ許ス

第十一條 監倉ニハ刑法及ヒ治罪法ヲ備置キ未決者ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與ス可シ

在監人書籍ヲ看ント請フ時ハ軍人軍屬ノ職務若クハ修身營業ニ必用ナル者ニ限り之ヲ許ス可シ

第十二條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ監倉ニ拘禁シタル時ハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フ可シ其着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿チ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルコトヲ得サラシム

第十三條 在監人ヲ他監ニ移ス時ハ其名籍并ニ處刑ノ宣告書其他必要ノ文書及ヒ領置ノ財物ヲ具シテ送致ス可シ押送人ハ送致ヲ受クル所ノ司獄官吏ニ發遣途中ノ行狀ヲ申告ス可シ
在監人ヲ法廷又ハ他監ニ押送スル時ハ時宜ニ因リ戒具ヲ用フ可シ

准士官以上ノ軍人若クハ同等ノ軍屬ヲ押送スル時ハ成ル可ク乗車セシメ人目ニ觸レサラシムルヲ要ス
婦女ヲ押送スル時ハ男子ト別異ス可シ

第十四條 特赦ヲ受ケタル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ於テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ告示シ仍ホ之ヲ掲示ス可シ

第十五條 在監人ヲ賞罰シタル時ハ賞罰簿ニ其氏名及ヒ賞罰罰文ヲ記載シ第十四條ノ例ニ依リ囚徒ニ示ス可シ

第十六條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ク可カラズ

第十七條 死刑ニ處セラレ又ハ在監中死亡シタル者アル時ハ領置シタル財物ヲ死者ノ親屬ニ下付シ若シ親屬ナキハ遺骸ヲ領收シタル故舊ニ下付ス可シ
親屬故舊遠隔ノ地ニ在テ許多ノ遞送費ヲ要スル時ハ賣却シテ其代價ヲ送致スルヲ得

遞送ノ費用ハ領收スル者ヨリ之ヲ償却セシム可シ
其財物若クハ代價ヲ領收ス可キ親屬故舊ナキ時ハ之ヲ沒收ス

第十八條 在監人逃走シタル時領置ノ財物ハ第十七條ノ例ニ從ヒ處分ス可シ但逃走ノ日ヨリ滿一年ノ後ニ非サレハ之ヲ處分スルヲ得ス

第十九條 水火風震等罹災ノ虞アル時ハ監獄署長又ハ警查長其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシム可シ但急激ニ際シ押送スルノ違ナキ時ハ要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第二十條 監倉禁錮場共ニ一區域内ニ在ル者ハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス

第二十一條 甲監房ニ在ル者ト乙監房ニ在ル者ト彼此交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシム可シ

各監房ノ鑰匙ハ其制式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第二十二條 監獄内ニ病室及ヒ閤室ヲ設ク其閤室ハ暗ニ空氣ヲ流通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス且一室一人ヲ限リトス

第二十三條 燈火ハ監房外ニ置キ危險ノ虞ナカラシム可シ

第四章 役法及ヒ時限

第二十四條 定役ニ服スル囚徒ノ作業ハ毎囚一日ノ科程ヲ定メ服役セシム十六歳未滿ノ者及ヒ病後ノ疲勞等ニ因テ勞作ニ堪ヘサル者

ハ其體力ニ應シ科程ヲ寬恕ス
其作業ハ成ル可ク平生ノ職務ニ要用ナル工事ヲ撰ミ之ニ服セシム
可シ

輕禁錮ノ囚徒作業ヲ爲サント請フ者アル時ハ之ヲ許スコトヲ得

第二十五條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外

ニ整列セシメ警査長及警査點檢ス可シ還房セシムル時モ亦同シ

第二十六條 左ニ記載セタル日ハ服役ヲ免ス

父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第二十七條 未決者及ヒ作業ヲ爲サミル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起

床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以內監房外ニ

於テ運動セシム可シ

第二十八條 作業ヲ爲ス者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除

シ畢テ喫飯セシム其起床ヨリ約于一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前

十時前後ニ於テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス午飯後

暫時休憩シ再ヒ就役日没前役ヲ罷メシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム

但時宜ニ因リ其時間ヲ伸縮スルコトヲ得

起床還房就役休罷役其他動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全

監一齊ニ動止セシム

第二十九條 造船所其他工場ノ役ニ服セシムル時ハ第二十八條ノ例

ニ拘ハラズ成ル可ク其工場ニ定メタル時限ニ從フ可シ

第五章 工錢
第三十條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢

ヲ料定シ之ヲ十分シテ其八分ヲ監獄署ニ收メ其二分ヲ與フ
定役ニ服セサル囚徒ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ
監獄署ニ收メ其七分ヲ與フ

第三十一條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期
一百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第三十二條 在監人ニ與フ可キ工錢ハ監獄署ニ領置シ毎月ノ首ニ於
テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシム可シ

第三十三條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢若クハ官署ノ定則ヲ準
トシ各自ノ技能ニ應シ之ヲ定ム可シ

第三十四條 監獄署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スル
コトヲ許シ又書籍其他必用ノ物品及ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得
但其食物ハ定役ニ服スル者ハ一日金三錢定役ニ服セサル者ハ一日
金五錢ヲ限リトス

第三十五條 在監人死亡シタル時其領置ノ工錢ハ第十七條ノ例ニ照
シテ處分ス可シ

第三十六條 在監人逃走シタル時其領置ノ工錢ハ之ヲ沒收ス
第六章 給與

第三十七條 在監人ニ貸與スル物品

一 毛布若クハ蒲團

一 蚊帳

一 莞藎

一 枕

一 手巾

一 簍若クハ合羽

一 笠

以上ノ貸與品ハ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充
ルコトヲ得

第三十八條 下士卒及ヒ准卒禁錮若クハ拘留ニ處セラレタル者ハ左
ノ獄衣ヲ着セシム

常衣

一 單 赭色

一 袴 同

一 綿入衣 同

一 襦袢

一帯 長四尺三寸白色
但病室ニ在ル者ハ白色澗袖衣ヲ着セシム
役衣

一綿入短衣 赭色

一袷短衣 同

一單短衣 同

一袷股引 同

一單股引 同

病室ニ在ルモノハ本條ノ限ニ在ラス

第三十九條 等外吏以下ノ軍屬及ヒ常人ハ其請求ニ因テ第三十八條ノ獄衣ヲ貸與ス

第四十條 各監房常置ノ器具

一貯水器 木製

一便器 木製 監房ニ開關アルモノハ此器ヲ用ヒス

一洗手盥 木製

一飲器 木製

一唾器 木製

一小桶

一蓆帶

一雜巾

第四十一條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ三日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一次剪髮ハ二月毎ニ一次剃鬚ハ一月毎ニ一次トス但醫官ノ申出ニ因リ臨時浴湯若クハ剪髮剃鬚セシムルハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第四十二條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澗ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ曬洗ス可カラス

第七章 疾病及ヒ死亡

第四十三條 在監人疾病ニ罹ル時ハ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

第四十四條 病者ノ攝生ニ効アル飲食物若クハ湯婆等ヲ用フルコトヲ要スル時ハ醫官其旨ヲ證明シ監獄署長之ヲ考檢シテ許否ス可シ

第四十五條 傳染病侵蔓ノ兆アル時ハ其消毒豫防ヲ慎重ニス可シ若

シ在監人中傳染病者アル時ハ速ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫官ノ診斷書ヲ副ヘ海軍卿若クハ所管長官ニ申報ス可シ

第四十六條 在監人死亡シタル時ハ監獄署長警查長醫官會同驗屍ス可シ

驗屍畢レハ其狀況及ヒ年月日時ヲ記載シ死亡證書ヲ副ヘ本人所管ノ長官ニ申報シ陸軍々人軍屬ナル時ハ其所管官司ニ通報シ軍人軍屬ニ非サル時ハ本籍ノ戸長及ヒ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ未決囚又ハ已決囚ニシテ再ヒ訊問ニ係ル者ハ其軍法會議ニモ亦之ヲ通報ス可シ

第四十七條 軍人軍屬在監中死亡シタル者ノ遺骸ヲ處分スルハ通常軍人軍屬ノ遺骸ニ同シ

陸軍々人軍屬ノ遺骸ハ其所管官司ノ處分ニ付ス可シ
軍人軍屬ニ非サル者ノ遺骸ハ死亡若クハ死刑執行ノ時ヨリ二十四時内ニ請フ者アレハ之ヲ下付シ請フ者ナケレハ之ヲ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツ可シ

第八章 書信及ヒ接見

第四十八條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六月間ニ一次トシ一

通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スル時又ハ親屬故舊ニ回答ヲ爲サント請ヒ監獄署長必要ト認ムルハ此限ニ在ラス

未決者ヨリ贈ル信書ハ定限ナシ

第四十九條 在監人ノ發スル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢ス可シ若シ書中忌諱ニ渉ル等ノ文意アルハ通信ヲ許サス

第五十條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來ル信書ハ監獄署長之ヲ閱檢シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ悛改ヲ妨クルモノト認ムルハ之ヲ付與セス

第五十一條 未決者ニ係ル出入ノ信書ハ審問委員若クハ主理ノ閱檢ヲ經ルニ非サレハ贈答セシムルコトヲ得ス

第五十二條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ監獄署長之ヲ緘シ封皮ニ受領ス可キ者ノ住所氏名ヲ書シ海軍某監獄ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム其自辨スル資力ナキ者ニハ之ヲ許サス
親屬故舊ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシム可シ

第五十三條 在監人ニ接見セント請フ者アルハ監獄署長先ツ之ニ
面接シテ族籍職業氏名等ヲ訊ヒ其緣由旨趣ヲ詳悉シ己ムヲ得サル
事情アリテ形狀ノ疑フ可キコナキハ之ヲ許シ警查長警查並蒞テ
面會セシム但未決者ニ係ルハ監獄署長審問委員若クハ主理ニ照
會シテ之ヲ許否ス可シ

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス若シ面會ヲ請フノ旨趣ニ
違フタル談話ヲ爲スハ直ニ之ヲ停止ス

第五十四條 死刑執行ノ以前又ハ徒流懲役禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒
ヲ地方監獄ニ押送スル以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フハ
第五十三條ノ規則ニ從ヒ面會セシム但其時間ハ五十分時ヲ過クル
ヲ得ス

第九章 差入品

第五十五條 未決者ニ其親屬故舊ヨリ書類寢具衣服用紙若クハ飲食
物ヲ贈ラント請フハ酒類煙草及ヒ攝生ニ害アル者ヲ除クノ外之
ヲ許ス但書籍ハ第十一條ニ記載シタル者ニ限り飲食物ハ炊烹ヲ要
セサル者ニシテ一人一食ノ量ニ限ル

第五十六條 已決囚ニハ第五十五條ニ掲クル衣服書籍及ヒ用紙ノ外

差入ヲ許サス

第十章 掲示

第五十七條 各監房ニ左ノ諸款ヲ掲示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシ
ム可シ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於
テ之ヲ讀ミ聽カス可シ但未決監ニハ第九款ヲ掲示セス

掲示

- 一 在監人ハ常ニ教令ヲ遵守ス可シ
- 一 平日互ニ和順ヲ主トス可シ
- 一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜ス可シ
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ干排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席
壁厠間ヲ掃除ス可シ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ唾器外ニ唾シ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ同行ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或
ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ談話或ハ發聲或ハ濫リニ起步スルヲ
禁ス晝間ト雖モ放歌喧噪或ハ高聲ニ誦讀シ又ハ隣房ノ者ト談話
スルヲ禁ス

一許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲ爲シ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルコトヲ禁ス

一服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ到ルコトヲ禁ス

一許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルコトヲ禁ス

一總テ願向ハ官吏巡視ノ際申出可シ

一監獄ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ハラズ直ニ看守所ニ通聲ス可シ

一日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非サレハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フ可キモノトス若シ劇症ナル時ハ直ニ看守所ニ通聲ス可シ

一獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ報ス可シ

一病者アル時ハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看病人ヲテシムル者ハ切實ニ之ヲ看病ス可シ

一水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ憲兵部若クハ警察署ニ其旨ヲ首出ス可シ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルコトヲ知テ告ケサレ者若クハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ

年號月日

海軍某監獄署

第十一章 賞譽

第五十八條 已決囚獄則ヲ謹守シ且悛改ノ行爲著キ者ト監獄署長ニ於テ認ムル時ハ之ヲ賞譽ス可シ

第五十九條 賞譽セシ者ニハ賞譽毎ニ之ヲ表スル爲メ衣服ノ左袖肩臂間ノ表面ニ横ニ二寸豎一寸ノ赤色ノ布ヲ縫着ス可シ

第六十條 賞表ハ假出獄若クハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スコトヲ得

第六十一條 賞表ヲ得タル者ニハ二月間ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルコトヲ許ス

第六十二條 已決囚在監人ノ逃走ヲ密告若クハ捕獲シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ或ハ人命ヲ救援シタル者アル時ハ金貳拾五錢以下ヲ賞與ス其賞金ハ監獄署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品若クハ食物ヲ購ヒ之ヲ給ス可シ但賞表ヲ與アルノ限ニ在ラス

第六十三條 未決監ニ在ル者第六十二條ノ功勞アル時ハ之ヲ錄シテ

軍法會議ノ參考ニ供ス可シ

懲治人ニ在テハ金貳拾五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フ可シ

第十二章 懲罰

第六十四條 已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 關室 關室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ寢具ヲ禁ス

第六十五條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食關室ハ七晝夜ヲ限ト爲ス

減食關室七晝夜ニ滿ルモ悔改ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第六十六條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則ヲ犯シタル時ハ其

輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減セス

獨慎ハ七晝夜以內減食ハ三日以內ト爲ス

第六十七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則ヲ犯シタル時ハ其輕重ヲ量リ第六十五條第六十六條ニ準據シ減食スルコトヲ得

第六十八條 賞表ヲ有スル者懲罰ヲ受ケタル時ハ賞表一個若クハ數

個ヲ褫奪ス

第六十九條 減食若クハ關室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫官ヲシテ

診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フ可シ

第七十條 屏禁減食關室若クハ獨慎ノ罰ニ處シタル者アル時ハ監獄

署長若クハ警查長時々其動靜ヲ察シ狀況ニ由リ醫官ヲシテ之ヲ問

ハシムルコトアル可シ

第七十一條 懲罰ニ處セラレタル者悔改ノ狀著ル、時ハ之ヲ免スル

コトヲ得

囚徒服役時限表

第六編〇治罪〇第四類〇陸海軍監獄則〇海軍監獄則

六百七

	十二月	十一月	十月	九月
保異分ニレニ別國フ刻分ア節ニナノ以ノ約 ツナ秒於ノ由ア西ルア秒リニ年ス時テ時子 能キノテ地テリニニ時早々然刻起刻日 ハヲ差モ方何此ノ東加差々晩季ルト床ヲ出	七時〇八分	五十六分	二十六分	四十八分
	八時〇八分	五十七分	二十七分	六時四十分
	第十時ヨ	同上	第十時ヨ	第九時五十分ヨ
	十二時ヨ	同上	同上	十二時ヨ
	同上	二十分	三十分	四十分
右ノ時間 ニシテ工 器ヲ併 シ及ヒ 浴等ヲ サシム 爲	二時二十分	八時四十分	九時四十分	一時五十分
約テ時 ノ刻入 以テ時 ノ刻入 ナス	五十二分	五時〇八分	三十七分	十六一分
	六時十二分	六時十三分	七時〇三分	十二分

月名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月
起	午前七時	三十八分	〇六分	三十二分	〇五分	四十九分	五十分	五十六分
就	午前八時	三十八分	〇七分	三十二分	〇六分	四十五分	五十一分	五十六分
役	午前第十時	第十時	同上	第九時四十分	第九時	同上	同上	同上
小憩	正午十二時	十二時	同上	同上	十二時	十二時	同上	同上
飯	午後二時	五十分	四時	三十分	五時	二十五分	五十分	五十分
罷	午後三時	三十分	同上	同上	同上	同上	同上	同上
役	一時二十分	二時三十分	四時五十分	八時五十分	八時五十分	四時五十分	九時五十分	四時五十分
晚飯	午後五時	五時二十分	五時四十分	六時	六時	七時	七時	六時四十分
還房	六時二十分	六時五十分	七時三十分	八時三十分	八時五十分	九時	八時四十分	八時四十分
服	八時二十分	七時五十分	七時三十分	八時	八時五十分	九時	八時四十分	八時四十分
合								
計								

六百六

ヘシ	囚シ	シラ	表シ	司獄	ス各	刻各	其地	シ起	之始	毎平	ス大	故約
シ	ヲシ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
ヘ	囚	シ	表	司	ス	刻	其	シ	之	毎	ス	故
シ	ヲ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス

○第二節

海軍在監人 給與規則

明治十六年四月海軍省丙 第三拾九號(海軍一般)達

明治八年(三月)記三套第三十六號達犯罪人俸給概則ヲ廢シ更ニ海軍在監人給與規則別冊ノ通相定メ候條此旨相達候事
但昨十五年第四號及第二十號公布ニ基キ舊法ニ據テ已ニ處斷ヲ經タル者ハ仍ホ舊規ニ依テ給與候事

海軍在監人給與規則

第一條 收禁中軍人ハ非職俸軍屬ハ其俸給四分ノ二ヲ給與シ加俸食ト軍料及ヒ食料ハ給與セス但無罰ニ歸シタル時ハ俸給ノ減額ヲ追給ス可シ

第二條 非職ノ軍人前條ノ場合ニ於テハ其俸給ヲ減スルコトナシ

第三條 被告事件ニ付訊問ノ爲メ施行又ハ滯留セシムル時ト雖モ日當ヲ給與セス刑期滿限ニ因リ放還セラル、者モ亦同シ但無罰ニ歸シタル時ハ並旅行日當及ヒ滯留日當追給ス可シ

第四條 下士卒準卒被告事件ニ付訊問ノ爲メ旅行又ハ滯留セシムル時ハ旅費一里金五錢滯留日當金四十錢ヲ給與ス刑期滿限ニ因リ放還セラル、者モ亦同シ但明治十五年第拾號達ニ因リ地方ノ遞傳ニ係ル者ハ此限ニ在ラス

第五條 (明治十八年五月同省丙第二拾二號達改正)軍人屬海軍刑法 第百十九條第百二十條第百三十三條第百三十四條第百三十五條及 海軍懲罰令第二十八條第七第九第十ノ罪ヲ犯シタル者及ヒ第二十 九條第一ニ記載シタル擅ニ艦船屯營ヲ離タル者若クハ在監中逃走 シタル者ハ歸着到着ノ期ニ後レ若クハ艦船屯營本隊職役等ヲ離レ 若クハ逃走シタル日ヨリ就捕若クハ歸到ノ日迄俸給加俸食卓料食 料被服物品家族扶助金ノ給與ヲ停止ス但其懲罰ニ該ル者ハ家族扶 助金ヲ停止セス

第六條 軍人屬輕禁錮ニ處セラレ剝官ヲ附加セス及其官職ヲ失ハサ

ル者ハ裁判言渡ノ日ヨリ其刑期間本給四分ノ一ヲ給與シ加俸食卓料食料被服ハ給與セズ

第七條 下士卒准卒ハ輕禁錮中本給四分ノ一ヲ給與シ加俸食料被服物品等一切給與セズ

第八條 第六條第七條ノ者假出獄ヲ許サレ若クハ監視ニ付セラレタル時ハ其期限間本給四分ノ一ヲ給與シ假出獄中服務セシムル者ハ食卓料食料被服物品ヲ給與ス但下士卒准卒ハ服務セシメサル時モ又食料被服ヲ給與ス下士卒准卒重禁錮ニ處セラレタル者假出獄ヲ許サレタル時モ又前項ノ例ニ依テ給與ス

第九條 軍人属裁判言渡ニ對シ上告若クハ再審ノ訴ニ因リ無罪或ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル時ハ其俸給全額ヲ追給ス但加俸其他ノ給與ハ此限ニ在ラス

第十條 軍人属禁錮ニ處セラレタル者在監中ノ食物被服工錢及ヒ地方監獄ニ送致ス可キ者ヲ海軍監獄ニ留置シタル時ノ給與ハ總テ海軍監獄則ニ從フ

第十一條 軍人軍属禁錮ニ該リ剝官ヲ附加セラレ若クハ官職ヲ失フタル者ハ滿年賜金ヲ給與セズ

明治十九年七月一日出版御届

同 年十二月九日改題御届

同 年十二月十二日刊行出版

全部四册
定價金拾圓

編纂人

矢代操

東京府京橋區新肴町
第十三番地

大阪府平民

出版人

花井卯助

大阪東區安土町四丁目
第十一番地

發賣所

積善館

同區同町同番地

○各府縣豫約大取次專賣所

東京京橋區銀座四丁目	博開本社	大阪備後町四丁目	博開分社
全 京橋區彌左衛門町	知新社	全 長堀橋南詰	眞部武助
全 日本橋區橋町	鶴聲社	京都三條柳馬場	大谷仁兵衛
大阪北久太郎町四丁目	柳原喜兵衛	全 三條通東洞院	村上勘兵衛
全 唐物町四丁目	森本太助	全 三條通寺町	杉本甚助
全 全町四丁目	大坂同志出版社	愛知縣下名古屋本町	川瀬代助
全 心齋橋南壹丁目	松村九兵衛	全 全八丁目	片野東四郎
全 安堂寺町四丁目	田中太右衛門	岐阜縣岐阜	三浦源助
全 順慶町四丁目	此村庄助	全 大垣岐阜町	岡安慶助
全 全町三丁目	宮部彦八	石川縣金澤安江町	近田太三郎
全 博勞町四丁目	中川勘助	全 尾張町	池善平
全 全町四丁目	岡田茂兵衛	全 片町	益知館
全 南久寶寺町四丁目	前川善兵衛	全 上提町	雲根堂
全 安土町四丁目	鹿田靜七	伊勢四日市通町	伊藤善太郎
全 備後町四丁目	吉岡平助	全 山田	加藤長平

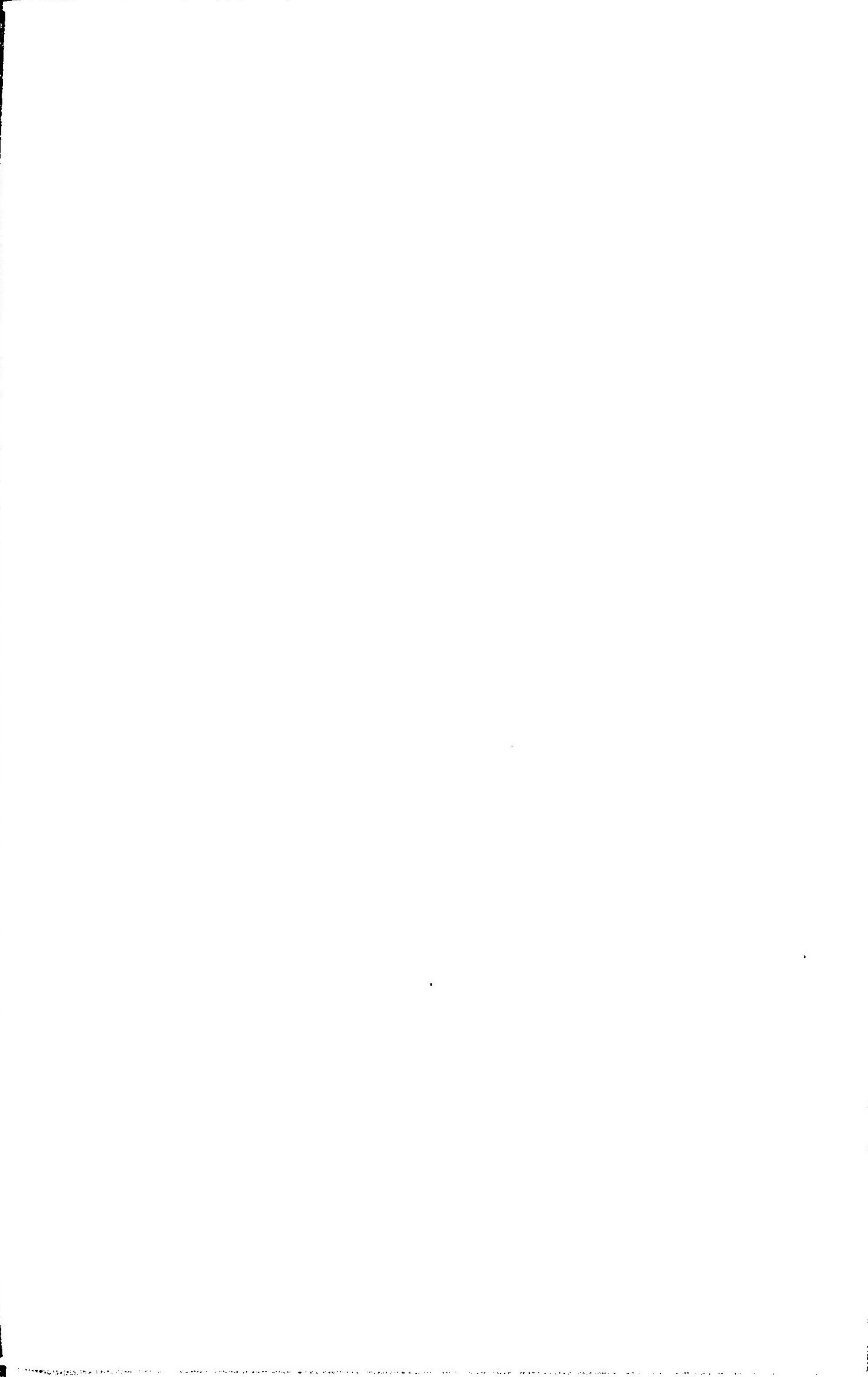
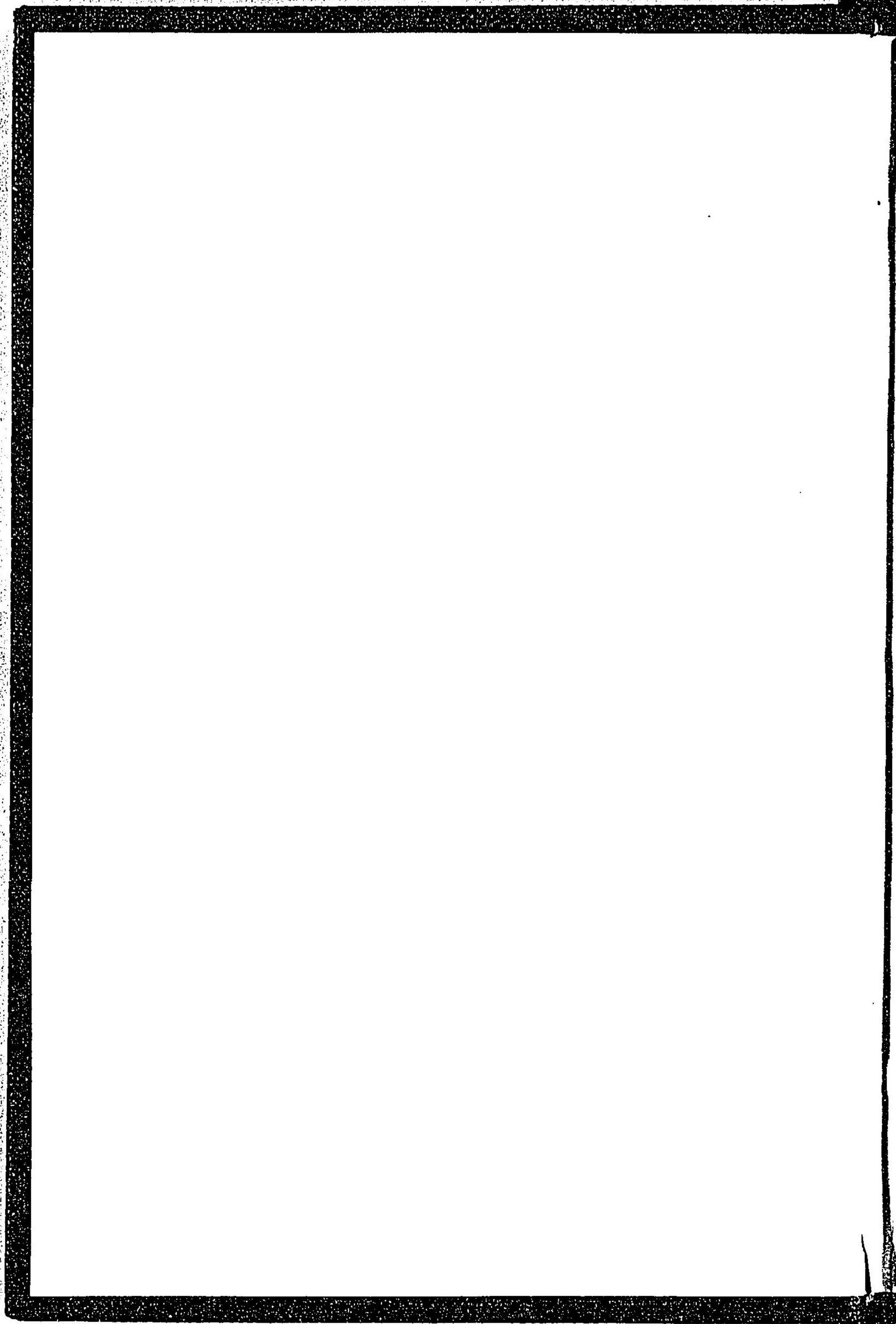
全 津	川島九右衛門	全 加古郡寺家町	前田得三郎
全 伊賀上野車町	淺野東助	備前岡山山中山下	大島勝海
全 紀州和歌山本町	山内專助	全 中ノ町	渡邊祐吉
全 北町	平井文助	全 中ノ町	森禎藏
和州五條	津田源兵衛	全 下ノ町	岡田源吉
泉州岸和田	本城久平	備中倉敷	小松原慶太郎
全 堺	本田庄次郎	全 玉島	田邊藏市
越中富山	鈴木久三郎	備後福山戎町	原田治助
越中高岡	大橋甚吾	全 尾道本町	三木半兵衛
越前福井	守川吉兵衛	全 三原	木村清三郎
全 全	岡崎左喜助	全 庄原	森晋助
全 武生	酒井安平	藝州廣島大手町	早速社
江州大津	安立庄三郎	全 東横町	清水庫三郎
攝州神戸元町	澤宗次郎	全 二丁目	以文社
播州姫路	船井政太郎	因州鳥取上魚町	横山安次郎
全	山野長平	伯耆米子	今井兼文
	伊藤和七郎	雲州松江本町	園山喜三右衛門

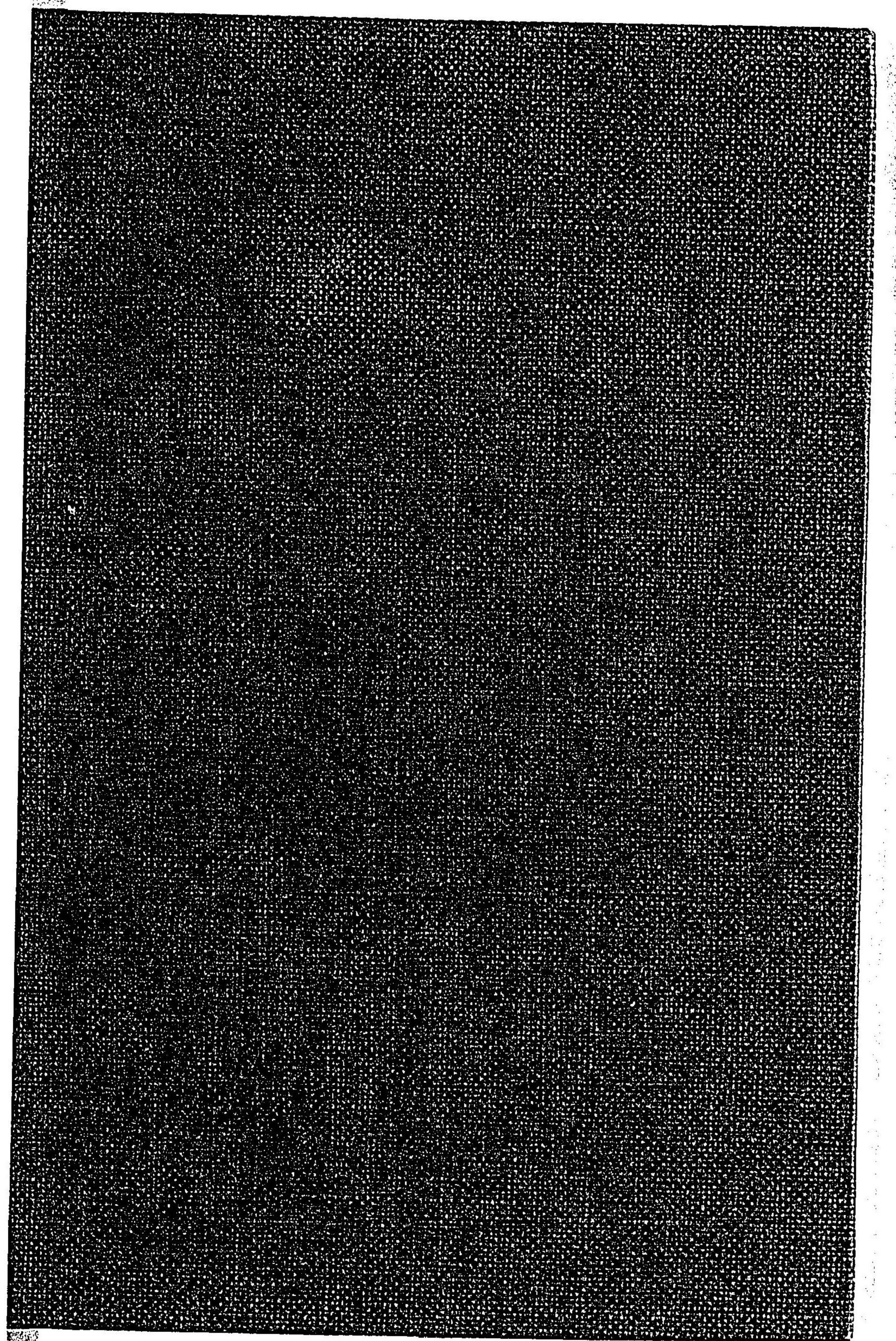
全 天神町	川岡清助
全 全町	大蘆利七
石州濱田	安達幾太郎
防州宮市	吉村春海
全 山口	宮川臣吉
長州赤間ヶ關	立野榮次
阿州徳島中通町	阪井萬吉
全 全新町橋詰	黒崎源助
全 東新町	小川久郎
全 鍛冶屋町	高砂竹次郎
土州高知種崎町	澤本駒吉
讚州高松丸龜町	岡田爲助
全 丸龜町	開文舎
全 丸龜富屋町	鹽田保藏
全 琴平内町	開文舎
伊豫松山湊町	箸方儀三郎
	土肥與平

伊豫松山湊町	向井藏三郎
全 今治本町	曾我伊兵衛
全 八幡濱新町	高橋傳吾
全 宇和島本町	毛利源造
筑前福岡箕子町	林 斧助
全 橋口町	山崎 登
全 天神町	田中重次郎支店
筑後久留米米屋町	田中重次郎
全 三本松町	菊竹儀平
筑後柳川瀬高町	赤司平助
全 肥前佐賀白山町	相浦久右衛門
全 思案橋	開進社
全 長崎引地町	河内莊助
肥前大村	開文堂
肥後熊本新二丁目	鶴野常藏
	山口友一
	長崎次郎

肥後熊本洗馬町	廣瀬傳十郎
全 通り町	長山喜三郎
全 坪井	中山四馬
薩州鹿兒島金生町	吉田孝平
日向都ノ城	高野助右衛門
豊後大分京町	山川正三郎
全 竹町	甲斐治平
全 鶴崎	岩津要藏
全 臼杵	甲斐繁藏
豊前仲津新博多町	野依曆三
全 古博多町	梅津壽平
下總國佐原	朝野利平
武州浦和	博開支社
信州長野	西澤喜太郎
越後高田	室直三郎
全 長岡	上田治平
全 新潟	堀 治作

380





318
禁電子式複写

030844-004-9

CZ-5-010

改正大日本六法類編

矢代 操/編

M19

BBC-0029



